

## 第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジウム 概要

開催日	2015 年 4 月 26 日(日)	時間	9 : 00~10 : 30	収容人数	500 名
タイトル	「生きかたー逝きかた」を支える施設でのみとり 工夫や苦勞を共有しましょう				
テーマ	施設でも大往生できる、施設だからできる看取りのやりかた。人生の最期を迎えるにあたり、個人の尊厳を守りながら如何に往生させるか、このセッションで考えましょう。				
概要	<p>「豊の上で最期を迎えたい」という言葉が日本語にはある。その言葉の通り「最期をどこで迎えたいか?」「病気が治らないとしたらどこで療養したいか?」などと言ったアンケートをすると、「自宅」を望むひとは少なくないことがわかる。しかし、実際に自宅で最期を迎える人がどれくらいかと言えば、10%を少し超えるくらいであることは皆さんご存じの通りである。国民の希望と現実のギャップを少しでも埋めるべく、自宅での良い看取りを少しでも増やしていくことも在宅医の使命の一つであるのかもしれない。</p> <p>しかし、2025 年問題が今後控えており多死社会を迎える日本において、自宅での良い看取りを増やして行くことは理想ではある。しかし、増やしていくにも限界がある。入院施設のベッド数も今後増える見通しはなく従って入院施設での看取りも今後大きく増えることはない。そこで、今後注目され、期待が掛かるのは「施設でのみとり」である。</p> <p>すでに、施設での看取りを経験している往診医も少なくない。また、施設での看取りを経験していくうちに、施設での看取りも悪くないこともわかってきつつあると思われる。</p> <p>そこで、このシンポジウムでは、施設看取りで工夫していることや苦勞したことを持ち寄り、施設でも大往生できる、施設だからできる看取りのやりかた。人生の最期を迎えるにあたり、個人の尊厳を守りながら如何に「生きかたー逝きかた」を支え、如何にか大往生させるか、このシンポジウムで考えたいと思います。さらに、今回はあえて看取りをしていないグループホームの立場からお話を頂きます。ただ、その施設の名誉のために申し上げますが、「生き方を支える」という観点からはとても素晴らしい施設であります。看取らない施設の立場を理解し、そこから更に施設看取りが充実していくような議論が出来ればとも思います。</p> <p>2025 年問題に向け「地域包括ケア」を充実させる方向に政府の施策が動いていますが、「住み慣れた地域で最期を迎えることができる」という目標も掲げられています。今後、介護施設がその一翼を担っていかなければいけないことは自明のことです。社会において今まで以上に重要な役割を果たしていかなければならなくなります。よりよい「生きかたー逝きかた」を支え、よりよい日本の未来を創造していくことが出来るような施設で看取りをしていくためにはどうしていけば良いのか、考えて行きたいと思います。</p>				
企画者 情報	ふりがな	姓	おの	名	ひろし
	氏名		小野		宏志
	所属施設	医療法人社団心 坂の上ファミリークリニック			
	部門				
	役職	理事長			
ご略歴	<p>平成 6 年 京都大学心臓血管外科勤務</p> <p>平成 6 年 浜松労災病院勤務</p> <p>平成 17 年 坂の上ファミリークリニック開設</p> <p>平成 25 年 日本在宅ホスピス協会全国大会大会長</p> <p>平成 26 年 坂の上在宅医療支援医院開設</p>				

